

## 中学校第2年生 保健体育科 学習指導案

比叡山中学校 教諭 八木聖真

### 1 単元名 けがの防止と応急手当

### 2 単元の目標

- 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因とその防止、応急手当の意義と実際について、理解することができるようにするとともに、心肺蘇生法などの技能を身に付けることができるようにする。  
(知識・技能)
- 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因とその防止、応急手当の意義と実際に関わる事象や情報からの課題を発見し、自他の危険の予測を基に、危険を回避したり、傷害の悪化を防止したりする方法を考え、適切な方法を選択し、それらを伝え合うことができるようにする。  
(思考・判断・表現)
- 交通事故や自然災害などによる傷害の発生要因とその防止、応急手当の意義と実際に関心を持ち、課題の解決に自主的に取り組むことができるようにする。  
(主体的に学習に取り組む態度)

### 3 単元について

#### (1) 教材観

本単元は、「けがの原因と防止」という題材から、交通事故、応急手当、AEDの使用の仕方まで教材として取り上げる。普段の生活の中でもおこりうるけがから、あまりなじみのない心肺蘇生法まで、幅広い内容ではあるが、いつ自分たちにAEDを使用して心肺蘇生を行わないといけない場面に遭遇するかわからない。けがを防止するためにどんな行動ができるか、そこからもしけがをしてしまった場合どんな行動を取ることができるか、知識と技能をきちんと身に付ける必要がある。

#### (2) 生徒観

第2学年は1組27名、2組28名の2クラスで構成されている。他の学年と比べると人数は10名ほど少なくまとまった学年である。男女の人数比は女子の数のほうが多く、これまで比叡山中学校は男子のほうが多い傾向にあったが、その点めずらしい学年で非常に女子が活発である。

先日行われた、生徒会役員選挙には2年生から7名の立候補があり学校をよりよくしていきたいと意欲的な生徒が多く、行事ごとに実行委員を募ったときは多くの生徒が希望し、行事を盛り上げてくれている。

これまで生徒は教室での学びとして、けがや応急手当について教科書的な学びはしているが、実際の場面に出会ったことは少ないと思う。今回は講師として消防士の

方を招いて心肺蘇生法や AED の使用の仕方について学ぶことができる非常にいい機会である。

### (3) 指導観

本校は、「学び合い」という形で授業を進めているので知識を得る同時にアウトプットしながら主体的・対話的に深い学びを目標に取り組んでいる。普段の生活では実際にどんなけががおこるかわからないので、いろいろな場面を想定しながらどのような応急手当の仕方が適切か検討しながら進めることができる。

また、ゲストティーチャーを招いて心肺蘇生法と AED の使用の仕方を学ぶだけで終わらないように普段の自分たちの生活に落とし込めるような活動を取り入れていく。

### (4) ESD との関連

#### 本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

- ・ 公平性：一人一人の命を大切に、そのために自分自身も貢献できる。
- ・ 連携性：命を救うために自分の役割を全うする「一隅を照らす」精神。
- ・ 責任性：いざというときにとっさに判断し動くことができる。

#### 本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

- ・ コミュニケーションを行う力  
→命を救うために、初対面の人とでもコミュニケーションをとり、自分の役割を全うするために、確かな知識と行動力を身につけておきたい。
- ・ 他者と協力する力  
→一人一人が自分の役割を把握し、確実に動くことで命を救うことにつながるということ。
- ・ 進んで参加する態度  
→学校・職場・地域の研修で、AED の操作方法を学ぶ人も多い。心肺蘇生法や AED の使用方法に関する教育が普及すると、人々の健康に対する意識が高まり、コミュニティ全体の健康と福祉の向上につながる。

#### 本学習で変容を促す ESD の価値観

- ・ 世代内の公正を重要視できる  
→心肺蘇生法の仕方や、自宅から近い AED の場所を共有する必要がある。
- ・ 幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。  
→ゲストティーチャーとして地域の消防士を招くことで、安心した暮らしができていくことを実感する。  
→AED の使用の仕方や場所を知ることにより、もしものための備えができる。

関連する SDGs



#### 4 単元の評価規準

| ア 知識及び技能  | イ 思考力・判断力・表現力等  | ウ 主体的に学習に取り組む態度                                      |
|---|---|--|
| <p>①心肺停止に陥った人に遭遇した時の応急手当としては、気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AEDの使用といった心肺蘇生法があることについて、理解している。</p> <p>②胸骨圧迫、AEDの使用などの心肺蘇生法の方法について、理解したことを言ったり書いたりしているとともに、それらの方法が実践している。</p> <p>③傷害が発生した際に、その場に居合わせた人行う応急手当には、けがや病気の悪化を防ぐなどの意義があること、また、応急手当の基本には、状況の把握、周囲の人への連絡と協力の依頼、傷害の状態に応じた手当があることについて理解している。</p> | <p>①けがに応じた適切な応急手当について、習得した知識を自他の生活に適用したり、課題解決に役立てたりして、けがを引き起こす様々な危険を予測し、回避する方法を選択している。</p> <p>②けがに応じた適切な応急手当について、自他の危険の予測や回避の方法とそれを選択した理由などを、他社と話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて話し合っている。</p> | <p>①けがの防止と応急手当に関心を持ち、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p> |

## 5 単元の指導計画

| 次 | 主な学習内容  | 学習への支援   | 評価                            |
|---|---|--|-------------------------------|
| 1 | <p>○中学校入学後のけがの経験を振り返って、その原因についてグループで意見交換してみる</p> <p>○けがの多くは人的・環境要因に関わる危険を予測し、対策を取ることで防ぐことができることを確認する。</p> | <p>・中学生に起こりやすいけがのデータや場所・状況などを提示する。</p>                             | <p>ア③</p> <p>イ①</p> <p>ウ①</p> |
| 2 | <p>○交通事故につながるヒヤリハットな体験を思い出してみる。</p> <p>○事故を減らす交通環境の整備について自分の生活地域と関連付けたりして理解する。</p>                        | <p>・車の運転手から、歩行者や自転車がどのように見えているか映像を見せる。</p>                         | <p>イ①②</p> <p>ウ①</p>          |
| 3 | <p>○友達が学校で急に倒れてしまったらどうするか、意見を出し合ってみる。</p> <p>○応急手当には一般的な手順があることを理解する。</p>                                 | <p>・熱中症やプールでの事故などいろいろな場面状況を指定してグループごとに考えさせる。</p>                   | <p>ア①</p> <p>ウ①</p>           |
| 4 | <p>○心肺蘇生法には胸骨圧迫やAEDなどがあることを確認し、AEDの有効性に気付く。</p> <p>○グループで役割を決めて、傷病者の発見から呼吸を見るまでの行動の仕方を練習してみる。</p>         | <p>・心肺蘇生法の基本的な流れを理解する。また、「わからないときはAED」を読んで、思ったことをグループで話し合ってみる。</p> | <p>ア②</p> <p>ウ①</p>           |
| 5 | <p>ゲストティーチャー（大津市消防局局員）による心肺蘇生法の体験授業</p> <p>○消防士の講話や実技講習を通して</p>   | <p>・AEDキットなどを用いてより本番に近い状況を作る。</p> <p>・実践を想定して何名か募り心肺蘇生法を行う。</p>    | <p>ア②</p> <p>ウ①</p>           |
| 6 | <p>○地域のAEDを探しに行こう</p> <p>→グループに分かれて地域のAEDを探しに行く。</p>  | <p>・道中、十分に気を付けさせる。</p>   | <p>ウ①</p>                     |